

仙台運転協「勤プロ代表者会議開催」

仙台運転協は、6月18日乗務員勤務プロジェクト会議を開催しました。

当日東日本本部から矢部執行委員と東日本乗務員勤務プロジェクトの東京運転協安濃議長・東日本運協車掌分科長小尾さんが共に参加し、仙台における勤務問題について議論を交わしてきました。

はじめに仙台地本議長の千葉さんから

・貨物会社の夏季手当をめぐる情勢と、仙台地本独自の取り組みとして6月21日に集会が予定されている事の報告と、6月1日に国労加入された宮城野運輸区佐藤さんの紹介、車掌分科の組合員が来年には10名の方がエルダー社員になってしまう実態を報告されました。

仙台の各分科報告として

車掌分科 ①職場は違えども共通した統一要求に向け、全職場で集まり検討している。

②問題点を提起している

運転 ①6月1日の佐藤さんの加入報告

②昨年10月1日以降の検修職場における様々な問題を17項目の要求として地本に提出し、改善を求めている



等の報告がされました。

乗務員勤務制度の改善を求める為に情勢の意思統一並びに、労働協約締結と乗務員勤務制度について、東日本本部執行委員の矢部さんから報告されました。

①組織拡大について・・・仙台での拡大は昨年の大会以降24人目

全国で二桁の拡大に留まっているが、職場での議論を交わしていく中での拡大を願う

②検修外注化について・・・昨年12月・本年6月に各ブロック別会議を開催して、外注化の実態

昨年会社と締結した「一旦指定した勤務及び休日等の取り扱いに関する協定」を基に改定する運動を作っていくたい

偽装請負を「しない・させない」運動が求められている

出向先との交渉ができる体制をどのように作っていくか？が問われている

等等など職場における多くの問題をどのように解決に導くのか、国労としての真価が問われているし、職場での皆さんの労苦に答えるように努力していきたいと提起されていました。

その後、東日本車掌分科長の小尾さんから、「乗務員勤務のQ&Aの状況」、4月に行った運協役員会の報告がされ、運転からは安濃さんから、「乗務員勤務のQ&A」に沿って仙台の職場実態などに照らし合わせて意見交換を交わしました。

最後に自動車支部の北山さんから、仙台の自動車の実態について「昨年国労加入」「勤務変更の劣悪さ」「勤務システム導入の実態」などを生々しく報告されました。

仙台の地でもどこでも乗務員勤務の実態はあまりにもひどく、殺される前に辞めたい気持ちは十分に理解できましたが、まさにここは労働組合の真価が問われている勝負どころであると実感しました。

当日は皆さんご苦勞様でした